

■朝日重章(文左衛門) 御豊奉行。泰平の世の中での武士の生活ぶり示す克明な日記「鶯籠中記」を遺した。

あさひしげあき

・・・・・・1674＝ 尾張藩御天守鍵奉行朝日定右衛門重村の三男に生まれる。長男・次男は早世。

徳川綱吉將軍1680＝ 6歳：

天下一禁止・1681＝ 7歳：初めて御目見。

八百屋お七・1683＝ 9歳：

堀田正俊暗殺1684＝10歳：この年の名古屋城下町の人口54,118人，家屋は5,986軒。

別子銅山始・1691＝17歳：***「鶯籠中記」を書きはじめる。佐分源太左衛門の道場で槍の稽古を始め，弓術を朝倉忠兵衛に習う。**

世間胸算用・1692＝**18歳**：漢学の大家小出晦哲に入門。文左衛門と改名。あやつり芝居を初めて観る。槍術中段位。釣に熱中。

奥の細道・・・・1693＝19歳：博愛で負け，猿若を見物中不覚にも脇差の刀身をすり盗られる。朝倉忠兵衛の娘と結婚。初めて馬に騎る。心中現場を目撃。父が隠居を願い出る。この年，三代藩主綱誠襲封。領内に罪人が多くて牢舎満員となる。〈生類憐愍令〉のため尾張藩の鷹匠・鳥見・餌刺しなど多くが暇を申し出る。

芭蕉+師宣没 1694＝20歳：鉄砲頭で国学者の天野信景と親交を結ぶ。悪友たちとひそかに御禁制の雁肉を喰う。軍学者に入門。***家督を相続，御城代組・御本丸御番を仰せつけられる。**

生類憐令頂点1695＝21歳：初出仕。妻が女子を出産。居合の印可をうける。魚釣りと呼んであやつり芝居見物に出かけ両親に発覚，父が激怒。両親が隠居部屋に移る。

重秀勘定奉行1696＝22歳：御本丸番組となる。ばくちに熱中，連夜賭博に興じる。無理心中事件に奔走。初めて天守閣に登り，勤務中に観月。この年，尾張藩が碁・将棋・カルタなどの賭けを禁止。

・・・・・・1697＝23歳：文学の会〔文会〕に初参加。槍術の目録をうける。御深井御番になる。

吉保大老格・1698＝24歳：頼母子講に興味をもちはじめ。

・・・・・・1699＝25歳：御普請役。この年，三代藩主綱誠が死去，吉通が四代藩主になる。

・・・・・・1700＝26歳：頼母子講がつぶれて大いに後悔する。妻のヒステリイに悩まされる。***御豊奉行に栄転。**

松の廊下事件1701＝**27歳**：藩命により京・大坂へ出張。大坂の御用商人備後屋八郎右衛門らの歓待をうけ帰藩。豊替のため御具足多聞を下見，藩庁より褒美を賜わる。御作事奉行の会に出席。ふたたび頼母子講に熱中。

赤徳浪士討入1702＝28歳：物価大高騰のため，借金に奔走。大曾根御下屋敷の御庭を拝見。

赤徳浪士切腹1703＝29歳：“茶の間の女”が墮胎。藩庁へ「勤之覚」を提出。

団十郎刺殺・1704＝30歳：母に吝嗇し後悔。この頃から大酒のため胃・肝臓を患う。日蝕を観測。この年，藩主吉通の生母が乱行。

御蔭参流行・1705＝31歳：妻を離縁，内縁の妻を迎える。万松寺へ豊検査に向出。この年，師小出晦哲の妻が密通して心中未遂。

・・・・・・1706＝32歳：二度目の上方出張，三勝半七の心中墓に参って帰藩。内縁妻を正妻とする。御側同心頭御国御用人。この年，藩主吉通が女色に耽溺。

富士宝永噴火1707＝33歳：藩庁より御褒美を賜わる。妻が女兒を死産。この年，御馬廻の米倉喜右衛門が淫乱無窮のため改易。

江戸っ子拘束・1708＝34歳：定右衛門と改名。

徳川綱吉没・1709＝35歳：父より大酒を戒められる。伊勢参宮のため宇治山田に旅し芝居見物。妻が再び死産。娘が結婚。

・・・・・・1710＝**36歳**：三度目の上方出張。京・大坂で歡樂をつくして帰藩。疲(おこり)にかかる。

冥途の飛脚・1711＝37歳：妻の嫉妬に悩む。妻が女兒を出産。新たな“茶の間の女”が登場。

乾山陶器店・1712＝38歳：四度目の上方出張，大いに愉しむ。酒害のため黄疸症状が出る。

和漢三才図絵1713＝39歳：20年来の左顎の瘤がなくなる。この年，城下に付け火してまわる怪猫が出現。四代藩主吉通が死去，遺児が継ぐも直ぐに夭折，継母が六代藩主になる。

絵島事件・・・・1714＝40歳：妻と娘を連れ津島に参る。父が死去。

西洋紀聞・・・・1715＝41歳：隠居所棟あげ。母も重章の大酒癖を戒めて死去。

徳川吉宗將軍1716＝42歳：三分役を仰せつけられる。夢に母の姿を見て泣く。娘が病む。

隅田川の桜・1717＝43歳：年始に遅刻して上役より叱責される。上方出張を仰せつけられるもにわかには中止になる。深酒のため肝臓を病む。外孫が誕生。娘が病臥。岐阜へ出張五，***日記「鶯籠中記」絶筆となり，**

御蔭参流行・1718＝44歳：**没した。**